

あつみ ようちえん通信

vol.39 2022

企画・編集・(株)ASO



あつみのピカイチ☆三

年長
さんの

おひさま保育

『芝滑り』に行ってきました!
スリルいっぱい、疾走感がたまらない。

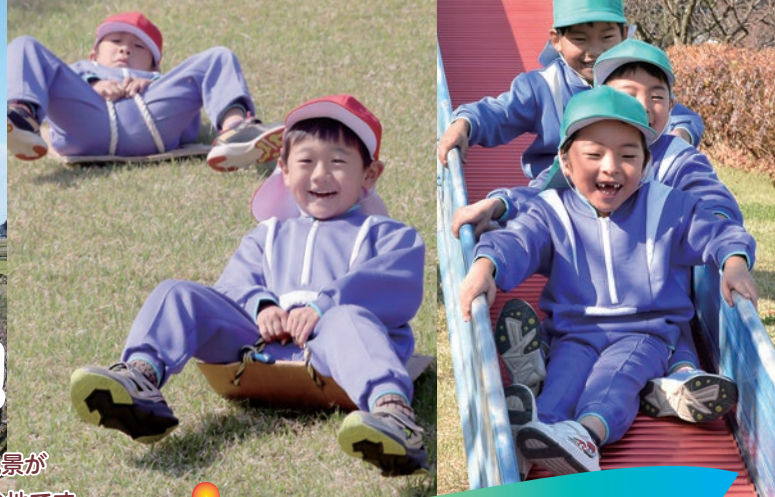


ワクワク!!

ドキドキ!!

自然の中で風を感じて！ Let's 芝滑り おもしろくて、楽しくて 何度も何度も滑ったよ！！

園バスを走らせること約40分。目的地の暮巻公園はのどかな田園風景が広がり、公園中央の築山からは360度周囲の山々を遠望できる絶景の地です。芝滑りをするのは築山の斜面、傾斜は40度近くありそう…。ワクワクドキドキで築山に向かいます。 レポーター おきもとさちこ



おひさま保育



うれしくてたまらない、 笑顔がはちきれちゃうよ～

見下ろすとかなりの急斜面です。ドキドキしながら不安げに滑り始める子どもたち。ところが「ワァ～」「キャ～」「おもしろ～い」の歓声が瞬く間に湧きおこります。滑っては坂道ダッシュで登り、再び滑るを飽くことなく繰り返す子どもたち。爽やかな秋空に笑顔が満開でした。



普段はおとなしい子も笑顔いっぱい。 本当に楽しそう！

「園内ではおとなしい子なんですよ」(先生)という子も、お友だちと一緒にとても楽しそう。「みんなと滑れた！」ということが自信につながっていくのかもしれない。「こんなことをしたよ！」「できたよ！」と、帰園するや誰かに話したくなりそう。得意げにネ。



斜度はきつそうに見えますが、この斜度が子どもの背中を押してくれます。1、2回滑ると自信をつけてどの子も平気で滑り出すようになりますよ。(副園長)



園の外に出かけると、「この子にはこんな面もあった」という発見がよくあります。園内とは違った環境で多様な体験ができる『おひさま保育』は、子どものいろいろな面を引き出すよい機会にもなっています。(担任)

フタを開け、使ってみよう。



滑り方と約束

●段ボールそりの使い方

段ボールの網を両手で持つ／お尻に敷く／両足を広げる
体重を背中の方へ移す

●約束

滑り終わったら芝の両はじから坂を上ってくる



←左記QRコードから当日の「芝滑り」の様子をご覧いただけます。
<https://youtu.be/rVOYGIakmNw>



光2組のお友だち



光1組のお友だち



おにぎり弁当で腹ごしらえ。 まだまだ滑るよ～！

たっぷり1時間遊んだところでランチタイムに。昼食は各自お家から持参したおにぎり弁当です。大きなおにぎりもぺろりと平らげてしばしの食休み後、なんと芝滑り再開。ターザンロープやローラー滑り台で遊ぶ子もいて、疲れ知らずの子どもたにもう脱帽です。



おひさま保育で出かける先は、 ほぼ14箇所(卒園までに)



おひさま保育では、園バスに乗って30分程度を目安に自然公園、農園、科学文化施設などに出かけています。幼稚園周辺には素晴らしい所がたくさんあります。これをきっかけにご家族でも出かけていただくと嬉しいですね。(手焼きせんべい体験は1時間ほどかかります)(園長)



取材を終えて

驚いたのは子どもたちのテキパキとした動きです。取材する私たちも置いていかれそうで慌てる場面もありました。視界の開けた公園に吹く風は爽やかで、久々においしい空気を堪能した取材でした。



子どもも楽しい、大人も楽しい。

「がんばらない絵本時間」のススメ



よい絵本との出会いは一生の宝物。「親子でもっと絵本を楽しみたい」という声がある一方で、「なかなか読めなくて……」という声も。長年、子どもと本をつなぐ活動をされている先生に、忙しい暮らしの中で親子で無理なく絵本を楽しむヒントを伺いました。

お話/NPO 法人山梨子ども図書館理事長 宮崎さなえさん

◎ 絵本は読まなければならないもの？

美しい絵、磨き抜かれた言葉。子どものために心を込めて作られた絵本は、子どもの世界を豊かにしてくれるものであり、育ちの糧となる大切なもの。子どもの育ちの基本は、「よく寝て、よく食べて、よく遊んで」ですが、そこにちょっと彩りとしての絵本が加わったらいいなあとは願っています。

絵本のページをめくりながら、親子でいっしょにこちよ言葉を楽しみ、美しい絵を楽しみ。そんなふうによい子どもと大人が「楽しいね」という気持ちを共有し合えるという点も絵本の大きな魅力。赤ちゃんをあやしたり、いっしょに遊んだりという親子の関わりの一つとして、絵本を手にとってみてほしいと思います。



◎ 子どもが喜ぶ絵本がわかりません

うちの子にどんな絵本を選んだらよいのかわからない。そんな時はどうぞ図書館を頼ってみてください。図書館には「児童担当」の司書さんがいるので、たとえば「3歳の男の子で、乗物が好きです」などと情報を伝えて、興味に合いそうな絵本を選んでもらうこともできます。あまり知られていませんが、本の貸出だけでなく、本選びの相談に乗ることも図書館の人の仕事なんです。図書館には書店には並んでいない絵本もたくさんあるので、きっと好みに合う一冊に出会えると思います。

◎ 絵本を読むのが苦手。上手く読むコツはありますか？



お話会など集団を対象とした読み聞かせには一定の方法論のようなものがありますが、おうちでの読み聞かせには「こうしなければ」というルールはありません。大好きなお母さんお父さんが自分のために読んでくれる、そのことが子どもは何よりもうれしいのですから、どうぞラクな気持ちで読んであげてください。

付け加えるなら、家庭での読み聞かせでは、「どう読むか」よりも「何（どんな絵本）を選ぶか」が大事なポイントといえるかもしれません。耳から聞いた言葉をどんどん覚えていく乳幼児期だからこそ、磨き抜かれた美しい言葉でつづられた絵本を選ぶということも、ぜひ意識してみてくださいね。

◎ 読み聞かせは毎日？

「毎日読めないんですけど」とおっしゃるお母さんには、「いいんじゃない？ 週に1回でも」と私は答えます。どのご家庭にもそれぞれの都合や生活がありますから、時間がなくて疲れているときは無理しなくていいんです。少し時間ができたとき、子どもと何して遊ぼうかなと思ったときに、「じゃ、絵本読もうか」。それくらいの気持ちで楽しんでみてはいかがでしょう。

「夜は時間がなくて、朝出勤前に1冊、子どもと絵本を読んでいます」というお父さんも。幼児向けの絵本なら1冊ゆっく

◎ 子どもが途中で飽きてしまいます

大人はきちんとページをめくって最後まで読みたい。でも、子どもは好きなページだけパラパラ見て満足。そういうこともありますよね。もし、子どもが途中で飽きたら、そこで「はい、おしまい。面白かったね」とにっこり笑って切り上げる。そんな感じでいいんです。たとえ1ページでも2ページでも「いっしょに楽しめたね」といううれしさは残るでしょう？ その満足感を大切に味わいたいですね。

◎ うちの子、絵本に興味がないみたい



絵本への興味を育てるには、なによりもまず身近に絵本があることがいちばん。目につくところになんとなく絵本があるという環境を用意してあげましょう。赤ちゃんならおもちゃ感覚で遊べる丈夫な厚紙絵本を用意する、少し大きくなったら図書館で興味を持ちそうな絵本を何冊か選んで借りてきてもいいですね。もし読まなくても、そのまま返せばいいと思えば気楽でしょう？

すぐれた絵本は大人が読んで面白かったので、まずはお母さんやお父さんが一人で読んでみるのもおすすめ。親が何か楽しそうに読んでいる姿を見たら、子どもは気になって「何してるの？」とのどきにくるかもしれません。

取材・文・中島恵理子

おすすめ!

『今、この本を子どもの手に』

(東京子ども図書館)

子どもの本選びに迷った時、信頼できるブックガイドがあると安心。絵本からノンフィクションまで計1000点を紹介。対象年齢は幼児から中高生まで。



宮崎さなえ Sanae Miyazaki

NPO 法人山梨子ども図書館理事長。「図書館ボランティアやまなし」代表。子どもの本の専門家の養成を活動の中心とする「山梨子ども図書館」(2005年設立)理事長として、絵本講座、読み聞かせ講座などの講師を務める。読書ボランティアとしても1996年より「ビッドの会」で活動。ストーリーテリング、読み聞かせ、ブックトークなどを通じて、長年にわたり地域の子どもたちや保護者との交流を重ねている。